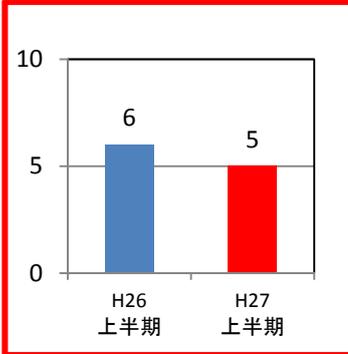
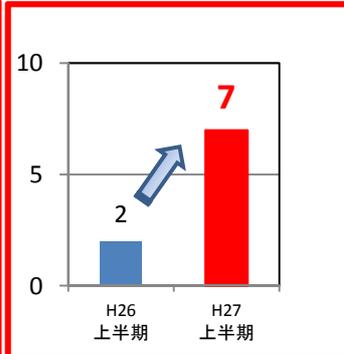


平成27年度工事等事故防止重点対策7項目における 事故発生件数（H26-H27上半期比較:速報値）

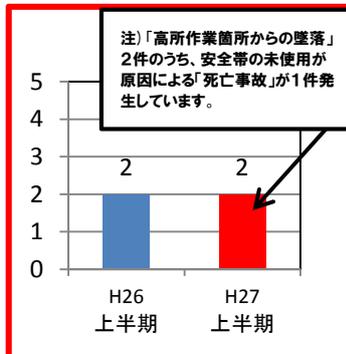
地下埋設管及び施設ケーブル



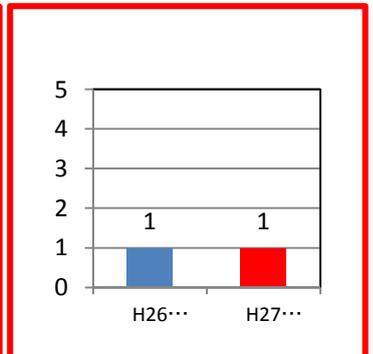
架空線



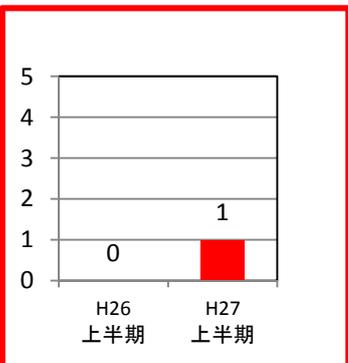
高所作業箇所からの墜落



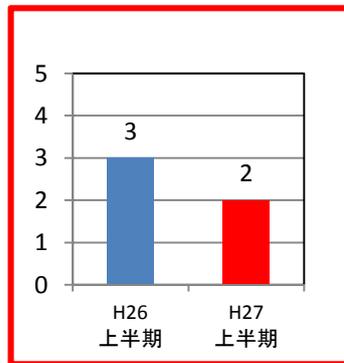
資材・仮設材及び工具の飛来落下



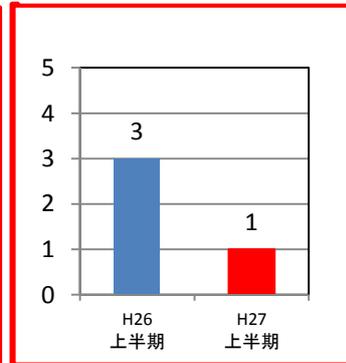
重機の転倒・接触



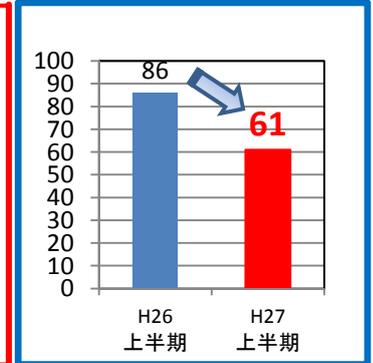
草刈り作業における飛び石



吊り荷と作業員との接触



工事等事故発生件数



【平成27年度工事等事故防止重点対策項目における事故発生の割合(上半期のみ)】

上半期における工事等事故発生件数は61件であり、昨年度の上半期と比較し、大幅に減少していますが、工事等事故防止重点対策項目は地下埋設5件(8%)、架空線7件(11%)、高所墜落2件(3%)、飛来落下1件(2%)、重機の転倒・接触1件(2%)、草刈りにおける飛び石2件(3%)、吊り荷との接触1件(2%)となっており、全体で19件発生し、**工事等事故防止重点対策項目に係る事故は発生件数全体に対し、約31%を占め、昨年度(1年間)での約33%同様、多く発生している状況です。**

個々の重点項目につきましては、「**架空線に対する事故**」が突出して増加しています。

事故要因としましては、作業前の現地調査及び関係機関との協議不足、現地での注意喚起の未実施、監視員の確認ミス等の安全管理不足が原因となっています。(事故対策については裏面を参照)。

また、死亡事故も発生しており、「高所作業箇所からの墜落」、「資材・仮設材及び工具の飛来落下」、「重機の転倒・接触」、「吊り荷と作業員との接触」は重大事故につながりかねません。

「草刈り作業における飛び石」も昨年と同様に発生しています。(草刈り時の対策についてはあんぜん第249号、5月号に掲載)。

一方、事故の対象外ではありますが、「もらい事故」が上半期で36件も発生しています。安全施設の破損だけでなく、交通誘導員や作業員の死亡事故等の重大事故につながります。今一度、道路利用者の視点から、現場における交通規制等の再確認をお願いします。



工事現場での盗難に注意！



工事現場での盗難の報告が増えてきています。

発動発電機や鉄板、銅線などの盗難が発生しており、盗難防止の対策をしても発生する悪質なケースもあります。

普段から、現場内の資材等の整理整頓を心がけ、また、不審な人物がいないか確認し、作業員同士のコミュニケーション(声掛け)、戸締り、施錠を徹底する等、盗難防止対策に努めていただくようお願いします。

架空線切断の事故に対する対策について

事故概要

コンクリートブロック積工の埋戻し作業の為、バックホウで土砂を荷下ろしていた所、バックホウのアームが道路照明柱の引込線に接触し、切断した。

原因

作業前ミーティングにおいてオペレーターへ作業時の架空線に対する安全指示はされていたが、オペレーターは作業時に上空の確認ができていなかった。

対策

架空線付近の作業について作業員全員に対し、現地での危険箇所の把握等の再教育を行う。



架空線事故防止対策(一般事例)

のぼり旗の設置



看板の設置



保護管の設置



(強固な構造の)防護用ゲート



高さ制限の確認



(アームをあげた際の)注意喚起のステッカー



上記は架空線への接触を防止する対策の一例です。

架空線につきましては上記以外にも様々な方法を過去のあんぜんにおいて掲載していますので参考にさせていただけたらと思います。

今年度の事故においてはバックホウ作業時に監視員を配置していたがあげたままでおそらく大丈夫だろうという判断を誤ったことによる事故、また、作業を終え、現場内を移動時にブームをあげたまま走行したことによる事故も多く発生し、周辺の作業員の声掛けで防ぐことのできる事故もあります。

目で気が付かせるもの、機械で気が付かせるものもありますが、作業をされる方が少し、意識することで架空線への事故を防ぐことができます。

今年も残すところ、あと、2ヶ月あまりとなりました。年末に向け、慌ただしくなり、秋から冬へと気候の変化、現場条件の変化があります。十分な食事や睡眠などで体調を整え、また、安全に対する意識を高め、安全対策をしっかりとしていただくとお願いいたします。

事故撲滅をめざし、ご安全に！！